



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 7号

平成21年度の予定

当館は、昨年の4月6日にオープンし、今年で二年目を迎えます。昨年は、8万人を超える方々にご利用いただきました。新年度は、新たな催し物も予定しております。主な予定をご紹介します。



毎月の催しもの

毎月、さまざまな催しものの開催を予定しています。申込み方法や内容の詳細などは、区報や館のWEBサイトをご覧ください。

開催日	イベント名
4月26日	海苔つけ体験
5月9日, 16日, 23日	聞き書きボランティア養成講座 「海苔の暮らしを書き残そう」
6月28日	海苔網で袋作り
7月26日, 8月23日	浜辺の生き物探検隊
7月30日	ペーパークラフトベカブネ作り
9月13日, 10月4日	海苔簀編み体験
10月11日, 12月6日	海苔の街を歩く (2回)
11月7日, 12月23日	
1月24日, 2月21日	海苔つけ体験
3月7日	

💡 新イベント

●聞き書きボランティア養成講座「海苔の暮らしを書き残そう」(全3回)

当館では、地域に密着した施設という特徴を活かし、元海苔生産者の皆さんから体験談を聞き、文章として形に残す活動をしていきたいと考えています。その第一歩として、話を聞き、文章にまとめる手法を学ぶ講座を開催します。

●海苔網で袋作り

海苔の養殖に使う網の編み方で袋を作ります。



第四回 のり祭り 4月5日(日)

- 時間 午前10時～午後4時(雨天決行)
- 会場 大森 海苔のふるさと館
- 主催・問合せ先 大森本場乾海苔問屋協同組合
TEL 03-3762-3441



その他の予定

催しものや講座の他に、主に次のような活動を予定しています。親子連れや子供たちが楽しめるものもあります。また、季節に合わせて変えていますので、何度でも足を運んでみてください。

- ✧ふるはま自然情報コーナー、生き物生態展示
- ✧のり検定2009(夏休み)
- ✧季節の絵本コーナー、昔遊び
- ✧ミニ写真展示 など

この他に、海苔の仕事体験など、皆様にもご参加いただける内容も予定しています。

■のりかんサポーター「はまどの会」

今年度から、学び、体験、ボランティアの三つの活動を柱に、館と連動した活動を行う方々を募集する予定です。

当館をフィールドに、異なる世代や経験の方が交流し、楽しみを共有する機会を作ります。

※「はまど」は、海で働く人という意味の大森地域の言葉です。

主催：NPO法人 海苔のふるさと会

■ミニ・イベント

気軽に参加できる小規模なイベントを行っていく予定です。絵本の読み聞かせと公園散歩、気軽にバードウォッチング、鳥のぬいぐるみづくり、海苔焼きの実演、海苔巻きづくり、など随時お知らせします。

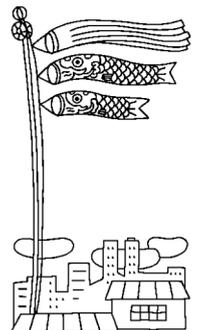
主催：NPO法人 海苔のふるさと会

■年中行事の飾りつけ

七夕飾りやひな人形など、季節の行事に合わせた飾り付けや、ミニイベントを行い、季節を感じる雰囲気作りを行います。

主催：NPO法人 海苔のふるさと会

※上記の詳細や参加方法については、館内掲示やWEBサイト、このニュースなどでお知らせします。



のりかんスタッフの一年 ~新年度もよろしくおねがいます!~

館で行っているアンケートをみると、知人の紹介で来館したという答えが多いことに驚きます。一年目の今年、予想を大きく上回る来館者を迎えることができたのも多くの方が館を紹介してくれたおかげと感謝しております。今後もスタッフ一同、にぎわいのある施設・喜びをえられる施設の実現に向けて努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

(文 - 小山 文大)

このニュースの編集やWEB作成、海苔つけ体験などを担当しました。人との繋がり大切さを実感した一年です。



昨年は、無事にこなすので精いっぱいでしたが、新年度は新たな企画で、より多くの方々との交流の機会を提供し、楽しさを共有していきたいと思っています。お楽しみに!

(まこ - 五十嵐 麻子)

皆さんにとって昨年はどうでしたか?私はとて充実した一年となりました。実は私社会人一年目で、失敗もしましたが他のスタッフに支えられながら、また、色々教わりながら一年を過ごしたように感じます。去年は「勉強の年」でしたね。「勉強の年」はもう少し続きそうですが…。今年は去年得たことを活かせるよう頑張っていきたいですね。

(りょう - 平山 龍)



新スタッフ紹介 高橋義人です

海に囲まれた島国ニッポン。

私は都内でも数少ない海と自然を身近に感じられるこの大田区に生まれ育ちました。

日々勉強の身ですが、皆様と「ふるさと館」でお逢いできることを心よりお待ちしております。

＊ コラム

普段食べているのは「焼のり」ですが、ここ、ふるさと館の海苔つけ体験でお渡しするのは「乾し海苔」です。私の子供の頃は海苔といえばこの「乾し海苔」で、朝ごはんの支度に海苔を焼くのは子供の役目でした。

ガスコンロの上に海苔二枚を合わせて持ち、最初は遠火でゆっくり水分を抜く、それから海苔の四隅を順に持ってヒラリヒラリと返しながらかくなるまで焼き上げる。パリッ! 香ばしい香りがいっぱいです。みなさんもせっかくご自分でつけた海苔ですから、美味しく召し上がって下さい。

(信田)

開館以来、この一年海苔に関する知識をうえ込み無我夢中で過して来ました。

二年目を迎えるにあたり、海苔のふるさと館が地域に根ざした博物館になるよう微力ながら尽力したいと考えております。

(宮川 - 宮川 修)

蒲田で生まれ育った海苔の大好きな私です。昔はお弁当に海苔が二段ですと「豪華」で嬉しく思いましたが、元々の海苔屋さん達の昔話を聞かせていただくと、海苔が貴重品だったことがよくわかりました。この一年間本当にお客様に育てていただきました。ありがとうございます。これからも館内を、チョコチョコ歩いてたら、気軽に声をかけてください。

(渡辺 - 渡辺 久江)

「海苔が採れるのは春?夏?秋?冬?」

海苔つけ体験に来る小学生のみなさんと共に私もこの一年学ばせて頂きました。海苔の養殖はここ大森から日本各地に伝えられ、文字どおり海苔の“ふるさと”である事。先人の努力、ご苦労なども“ふるさと”のあたたかさにつつんで来館されるみなさんに伝えていきたいと思っています。

(信田 - 信田 幸子)



第一回 NPO会員バスツアー見学

予想もしなかった春の嵐の中、施設見学バスツアーは30名の参加者を得て、元気よく出発しました。初めに浦安市郷土博物館を見学。昼食後、君津市漁業資料館を見学。それぞれの館で、千葉の海苔作りの展示を見学しました。

この辺で雨が上がり、次に金田漁港を訪問。現役海苔漁師の金萬氏の案内で海苔の養殖状況の説明を受け、漁場の現場を視察し、夕刻5時に大森へ戻りました。(宮川)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」7号

平成21年4月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 8号

お子様連れ歓迎!



子どもと楽しめる展示やイベント

赤ちゃんや幼児連れの親子や、小学校低学年とその家族などにも楽しんでいただけるような、展示やイベントがあります。

絵本の読み聞かせ & 公園散歩

公園にある当館は、午前中は幼児連れの親子のご利用が多くあります。小さな子どもたちに絵本を通して自然に親しんで欲しいと、自然をテーマにした絵本の読み聞かせをしています。

4月は春の絵本を選び、全員で身振り手振りを交えて楽しく読みました。その後は公園へ行き、クローバーで花飾りを作ったり、絵本に出てきたテントウムシを探したりして、全員が絵本の中に出てきた自然の世界に入り込み、時間をオーバーしてしまうほどでした。



今後は毎月第4火曜日の午前中に行う予定です。次回は6月23日です。(渡辺)

季節の飾りと工作遊び

来館者に季節感を感じてもらえるよう、今年からシリーズとして始め



ました。

その第一弾として、ゴールデンウィーク中、昭和30年代の端午の節句飾りの展示と、折り紙や新聞紙を使った「カブトを作ろう」を行いました。小学生と幼児が参加し、想像力豊かなカブトやコイノボリを作って、大切そうに持って帰っていました。

次回は、6月下旬から七夕飾りを予定しています。一緒に飾りつけしてくれる親子や大人の方も、お待ちしております。(まこ)

伝承遊び

昔懐かしい遊びを今の子どもたちに伝えるため、おてだまやけん玉などの遊び道具を貸し出しています。意外なことに、子どもたちは遊びの名前を全て知っていました。いざ遊ぶ段になると、コマの紐が巻けなかったり、竹とんぼがうまく飛ばなかったりして大変ですが、親子で夢中になって楽しそうに遊んでいます。

道具は、窓口で毎日貸し出しています。(宮川)



生き物の飼育と植物栽培

来館者に楽しんでもらいたいという気持ちから、カニ・魚など浜の生き物を飼育しています。特に子供には大人気です。嬉しいです。

その他に、ゴールデンウィーク中にヒマワリの種まきを行いました。早くも芽が出始めていますので、時間があれば様子を見に来てあげてください。ヒマワリさんも喜ぶますよ!(りょう)



公園と浜辺で一日遊ぼう!



「大森ふるさとの浜辺公園」は都内初の大田区立海浜公園です。当館は、その公園の一角にあります。

すぐ目に飛び込むのは長さ約30メートルのローラーライダー。毎日、子どもや家族連れで大変にぎわいをみせています。そして芝生が広がる公園を通り抜けるとそこには白い砂浜が目の前に広がり、様々な生き物の観察もできます。パーゴラやトイレも完備。休日には売店も。身近に自然と親しむ大切な時間を過ごす癒しの場になることを約束できます。(高橋)

6月～7月の催しものの予定

6月28日(日)「海苔網で袋づくり」
 7月26日(日)「ふるはま生き物探検隊」
 7月30日(木)「ペーパークラフトベカブネづくり」
 ※詳細・応募方法などは、区報をご覧になるか、直接、当館までお問い合わせください。



4月～5月に開催した催し物

海苔つけ体験

4月26日(日)、今季最後の海苔つけ体験を開催しました。元海苔生産者の体験談、生海苔の観察、焼きたての海苔の試食など、子どもから大人まで満足していただいたようです。回を重ねるごとに人気が増し、皆様の関心の高さを感じています。次のシーズンは、11月から行います。(まこ)

5月9日(土)、16日(土)、23日(土)の3回にわたって、聞き書きについて学ぶ講座を開催しました。聞き書きとはお年寄りの話を聞いて記録し、後世に残すことで、最近とても注目されています。

1、3回目は日本聞き書きボランティア協議会の方々に聞き書きの意義や方法を聞き、2回目は大田区郷土博物館の学芸員から海苔の歴史を聞きました。各回とも20名近くの方が参加し、とても熱心に受講していました。(文)

聞き書きボランティア養成講座



＊ コラム

このところ食べる量が少なくなり、なんでも冷凍するようになりました。生海苔もそうです。食べたい時に少しずつ解凍して佃煮を作っていました。先日、お客様から「全部作ってから1回分ずつ冷凍しておくとお便利だし、おいしいよ」と教えていただきました。

煮物はたくさん作る方が味が丸くなり、美味しくできあがります。本当にその通りでした。またひとつ、私の引き出しが増えました。

生活の知恵を教えてください。お客様との会話には、そんな楽しみが隠れています。(渡辺)



のりかんサポーター「はまどの会」

当館をより広く深く活用し、同じ興味を持つ人との交流の場を提供するため、のりかんサポーター「はまどの会」の活動をスタートします。

「学び」「体験」「ボランティア」を活動の軸とし、希望する活動を選んで参加できます。一緒に、元海苔生産者の仕事をじっくり体験したり、ヒマワリなど花壇の手入れをしたり、浜辺で生き物調べをしたりしてみませんか？

- 対象 高校生以上(高校生相当の年齢も含む)。
- 活動費 原則無料
- 応募方法 応募用紙にご記入の上、ご応募ください。詳細は、当館へ直接お問い合わせください。
- ガイダンス(説明会) 6月12日(金)、13日(土)(いずれか一日に参加) 午後3:30～4:30

❓ 「はまど」とは、海で働く人という意味の、大森地域の言葉です。

開館時間の延長のお知らせ

夏の期間、開館時間を2時間延長します。仕事帰りなど、夕方の涼しい時間帯にご利用ください。
 延長期間 6月～8月
 開館時間 午前9時～午後7時



総会の報告

5月27日(水)、ふるさと館の業務を大田区より受託している「NPO法人海苔のふるさと会」の通常総会が開かれました。26名の会員が参加し、議案すべてが承認され、本年も地域文化の継承に努めていくことが確認されました。(文)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」8号

平成21年6月1日発行
 編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
 連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
 TEL 03-5471-0333
 FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 9号

夏休み!



夏休みには、親子で楽しく参加できる催し物を行っています。自由研究の題材になる展示を見たり、体験で学んだりすることもできます。また、隣接する緑あふれる公園と白砂の浜辺では、自然観察と遊びの両方が楽しめます。この夏、注目のイベントなどを紹介しましょう。

のり検定

子どもたちが楽しく展示を学べるように、夏休み期間だけのクイズ問題をご用意しています。

昨年、大変ご好評をいただきましたので、今年は内容をを一新し、初級、中級、上級に加えて自然編の4種類になりました。問題を出題するのは、展示キャラクターのノリノリ君ファミリーです。

合格を目指して挑戦してみてください!

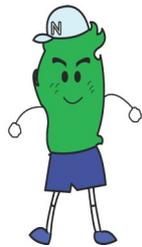
(まこ)

◆参加方法/窓口で用紙を受け取って、問題を解いてください。

◆日時/7月19日~8月31日

◆時間/開館時間中

◆対象/どなたでも



浜辺の生き物探検隊

ふるさとの浜辺に行くと小さな魚が群れて泳いでいたり、カニが岩の間にいたりします。

ふるさと館では、魚のボラがどんな暮らしをしているのか調べる、浜辺の生き物探検隊を行っています。7月と8月の二回募集してすぐに定員に達するほどの人気でした。探検隊は、東京海洋大学の佐々木研究室の協力を得て行っています。

皆さんも浜辺に行くときはぜひ生き物を探してみましよう。(文)



館の植物と生き物

ふるさと館では今、ヒマワリ、ゴーヤ、朝顔、エダマメなどを育てています。ゴーヤ生育には海苔網を使用しており、実際に使っていたものではありませんが、編み方、大きさなどは一緒です。



また、カニの水槽にも新しい仲間が増えました。その名も「マメコブシガニ」。横歩きではなく前に歩くことができるカニなんです。その姿はすごく可愛いですよ! 普段砂の中に隠れてます。頑張ってみてください。(りょう)

体験・自由研究にも!

子どもたちにも身近な食品である、海苔のことがいろいろわかるふるさと館。水での海苔つけや、海苔下駄に載って海に棒を立てる動作などが体験でき、楽しく学べます。

夏休みの自由研究にぜひふるさと館をご利用下さい。(文)



海苔簀 編み体験

9月、10月に、ヨシを使った昔ながらの「海苔簀(のりず)編み体験」を開催します。館では、8月の始めからそのための材料の準備を行う予定です。ヨシの刈り取り、天日干し、葉落とし、太さを揃えるなど、さまざまな作業を行い、一か月以上かかってやっと材料となるヨシ一本一本が完成です。

来館者の方々にも、材料準備にご参加いただけるチャンスがあるかもしれませんので、ぜひ体験してみてください。(まこ)

<海苔簀編み体験>

◆日時/9月13日(日) 10:00~15:00 ◆対象 /小学生3年生以上

◆定員/先着20名 ◆参加費/無料 ◆申込方法/8月21日から電話にて

※完成品した海苔簀は、お持ち帰りいただけます。

準備中

祝・10万人!!!!



平成20年4月6日の開館より、今年6月14日(日)で10万人のお客様をお迎えすることができました。

10万人目の入館者の方は神奈川県横浜市在住のお父さんと娘さんお2人のご家族でした。

理事長の平林義正氏より10万人目のお客様とその後5組のお客様へ記念品をお渡ししました。

今後とも皆様に親しんで頂ける館を目指します。よろしくお願ひします。(高橋)

報告 海苔網で袋づくり

6月28日、海苔を育てるための海苔網の編み方を応用して、きれいな紐で袋を編む学習会を開催しました。

最初に海苔網の基本的な「かえる股」という編み方を練習した後、巾着型になるように紐を編んで袋を作りました。

一日で覚えるには難しい内容でしたが、「難しかったけど楽しかった」という参加者が多く、全員が完成品を手にし、満足していただけたようでした。

(まこ)



✿ コラム

今年もまた暑い夏がやって来ました。夏祭りや盆踊り・夜店など子供時代の懐かしい思い出が蘇ってきます。

大森地域では今もこのような伝統的行事を続けていることに敬意を表し、今後も良き伝統を守っていただきたいと思います。お蔭さまでふるさと館も地域の皆様の温かいご支援をいただき、わずか一年二ヶ月で入館者数が10万人を越えることが出来ました。誠に嬉しい限りです。

これを糧に職員一同ますますふるさと館の発展に寄与したいと思っています。(宮川)

サポーター「はまどの会」

6月12日、13日に、参加を希望する方々を対象にガイダンスを開催し、活動をスタートさせました。サポーターは、海苔について体験しながら学んだり、催し物の補助として参加したりする活動を行います。

早速、「七夕飾りづくり」や「絵本の読み聞かせ&公園散歩」の補助に参加していただきました。活動後のメンバー同士の交流の時間では、共通の関心のお話で盛り上がる場面もありました。

メンバーは随時募集しておりますので、窓口へお申し出ください。(まこ)

9月の休館日

通常、第三月曜日を休館日としておりますが、9月は祝日となるため、21~23日も開館し、9月24日(木)を休館日させていただきます。

アド街ック天国

7月11日(土)午後9時から、テレビ東京「出沒!アド街ック天国~京急大森町」が放送されました。当館は14位。番組の全体に渡って、大森が「海苔の町」であることが紹介されました。

報告 七夕飾りづくり

6月27日、7月1、5日の三日間、七夕飾りをしました。願いごとを書いた短冊には絵を描いたり、折り紙で折ったアサガオを飾ったり、金銀の星で天の川を貼りつけたりしました。『巨人にドラフト一位で入る』『ケーキ屋さんになりたい』『家族仲良く暮らせよう』『パパのお腹がへっこみますように』...

願いがかないますように!(信田)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」9号

平成21年8月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 10号

特集

のりず 海苔簀編み

当館では、年間の海苔の作業を体験できるイベントを開催しています。夏から秋にかけては、海苔簀体験を行っています。その準備とイベントの内容をご紹介します。

準備編

海苔生産者の夏の仕事のひとつとも言える「海苔簀編み」には、長い準備期間が必要です。

まずは、材料のヨシを刈り取る「ヨシ刈り」を8月3日に行いました。刈り取る時期が少し遅かったのですが、たくさんのヨシを刈り取りました。その後、長さを揃えて切り、天日に当てて乾かします。

他にも細かい作業はいろいろありますが、おいしい海苔を作るため、実際に海苔簀を編んでいき、冬の海苔作りに備えます。（りょう）



体験編

親子での参加が多く見られたこの日。

指導者である元海苔生産者の方々は常に参加者目線の立場で懇切丁寧かつ的確なアドバイスをおこなっていただいた為、参加者の方々から大変親近感を持たれ、お互いに積極的な交流の場となりました。

結果、このとおり！！

参加者全員が「海苔簀」を完成させることができました。

み～んな 大満足～！！

わたしたち職員も大変勉強になった一日でもありました。（高橋）



大森海苔のふるさと館のイベント

■絵本の読み聞かせ&公園散歩■

10月27日（火）、11月24日（火）、12月15日（火）
午前11時～11時30分 対象／幼児と保護者

絵本の読み聞かせの後には、目の前の原っぱに自然を探しに行きましょう。

■海苔つけ体験■

11月15日（日）、12月23日（水）午前10時～12時
参加費／無料

いよいよ、海苔の季節到来です。一年で最もおいしい新海苔を使って、昔ながらの乾し海苔づくりに挑戦しましょう。



ふるさとの浜辺公園のイベント

●大森西ふるさと祭り●

10月24日（土）午前10時～午後4時

館の前の公園で、民俗芸能などが披露されます。

主催：大森西地区自治会連合会、第二回大森西ふるさとまつり実行委員会

●OTAふれあいフェスタ2009●

11月7日（土）、8日（日）午前10時～午後4時

ふるさとの浜辺公園、平和の森公園、平和島公園、平和島競艇場でイベントが行われます。施設内では海苔問屋の即売会、目の前の公園ではフリーマーケットやモンキーブリッジ（アスレチックのような遊具）などのイベントが予定されています。

主催：OTAふれあいフェスタ実行委員会、大田区

東京海洋大学との協働事業

当館では、東京海洋大学との協働事業を館のオープンから続けています。

今年の夏は、体験学習会「浜辺の生き物探検隊」、講演会「東京湾の海苔漁業のお話を聞く会」、講演&ワークショップ「東京湾の美味しい話」を実施しました。どの催し物も大学の専門性と浜辺近くという館の立地を活かした内容で、参加者の皆さんにはとても好評でした。

9月からは毎月1回東京湾のさまざまな側面について専門家のお話を聞き、ともに語り合う連続講座「江戸前マイスター講座」が始まっています。（文）



報告＊ペーパークラフト

7月30日（木）に開催した「ペーパークラフト“ベカブネ”作り」は、昔、海苔を摘み取る時に使っていた“ベカブネ”をペーパークラフトで作るといふ、夏休みの自由研究にピッタリな講座です。

参加者は海苔について学べたことだけでなく、実際に作ることで楽しんで参加できたようです。

（りょう）

＊ コラム

早いもので半年の月日が経ちました。

私の生まれ故郷であるのと同時に江戸時代から続くこの“海苔の地”で働けることは大変誇りに思います。

館内には海苔養殖最盛期の当時を思い起こさせる数々の展示物。

また屋上やテラスから望める蒼い芝生に白い砂浜そして江戸前の海の景色は都会の雑踏から一瞬にして皆様の心を癒していただけたと思います。

さらに当時の海苔養殖地であるこの場所では、離発着する羽田からのジェット機やビルの谷間をすり抜ける高速道路を望むこともでき、その意味を深く噛み締めている今日この頃です。（高橋）

アメリカ・セーラム市からの交換留学生

去る8月11日（火）、ボストンの北側に位置するセーラム市より8名の高校生と2名の教員の方々が「海苔付け体験」にチャレンジしました。

奉仕体験でお手伝いに来ていた地元高校生との交流も深まり、とても賑やかな雰囲気の中で「海苔付け体験」をおこなうことができました。

みなさん暑い中ありがとうございました。（高橋）

■ガイドブック『セーラムの歴史』（¥200 - 税込）
当館で販売中



※ ‘91年11月より大田区とセーラム市が姉妹都市となり両都市の交流は益々深まっています。

ミュージアム・シアター・ワークショップ

8月15日（土）・16日（日）、ミュージアム・シアター・ワークショップ（MTW）による「大田海苔劇場一人とまちと海をつなぐー」が開催されました。



観覧者とのやりとりによって、海苔の街大森を即興演劇で演じるという催し物です。

展示室には展示の中から海苔の生産者が飛び出て来たような光景が現れ、見学の方々はいつもとは違った体験に興味深そうに見入っていました。（まこ）

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」10号

平成21年10月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース 11号

現代の江戸前海苔づくり

今年4月の「棒抜き作業」に続き、千葉県市川市三番瀬の若き海苔漁師の福田武司氏のご厚意で今回9月23日（祝）の「海苔の種付け作業」を実際に体験させていただきました。

行徳漁業共同組合前に6時集合で福田さんをはじめ、ご家族や他の海苔漁師さんたちは既に朝3時に現場入り。

当日は秋晴れの中での作業となった。

朝方は少し涼しかったものの日中は汗ばむ陽気となった。



海はとても静かな状況、つまり“凪（なぎ）”の状態だと船に揺られると眠気に襲われるほどだ。

江戸時代から始まり広まった海苔養殖。

現在は江戸時代とは比べものにならないぐらい技術が進み、同時に作業量も増し、海苔漁師への苦労と負担は江戸時代当時から変わらないものなのだろう。

いやそれ以上に労働力は増えているように強く感じられる。

福田さんからも「海苔漁業の継続的な取材を行って欲しい」との強い要望もあり、現代の海苔養殖事情の1年を追っていきたく考えている。（高橋）



よみがえる大森の海苔づくり

約50年前に終了した大森の海苔生産。かつて、日本一の生産量・生産高を誇った大森の海苔養殖を復活させるプロジェクトが「ふるさとの浜辺公園」にて行われています。その名も「アサクサノリ生育観察」。昭和の時代に漁業権を放棄しているため、「生産」としてではなく、「後世への継承」としての活動です。

網ヒビ（海苔を付着させる網）を海に張り、海苔



を採り、海苔をつける。昭和の時代に行われていた作業が蘇ります。今年は網ヒ



ビだけではなく、竹ヒビも建てました。干潮時の浜に行けば、竹ヒビを近くで見ることができます。

元海苔生産者の協力を得て行っているため、当時のいろいろな話を聞けます。

「ベカブネ（海苔採り用の小舟）は船尾を前にして進む時もあるんだ」

「網はたるませて張らないと海苔は育たない」など、貴重な話がたくさん。浜で作業をしている男たちを見かけたら気軽に声をかけてください。私たちのように、貴重な話が聞けますよ。（りょう）

のり/り!! ミュージアム・グッズ

「おみやげに海苔を買いたい」というお客様の声にお応えして、11月から海苔の販売が始まりました。

海苔を深く知るためのブックレット「海苔物語」、海苔の風物詩を伝える絵はがきセット「海苔の浮世絵」、大森本場乾海苔協同組合さんが自信を持ってお勧めする「おみやげの海苔」、海苔の三部作がそろいました。

ご来館の記念として、お土産として、ご利用ください。（幸子）



「旬」がまるごと(ポプラ社) 一月号に海苔特集

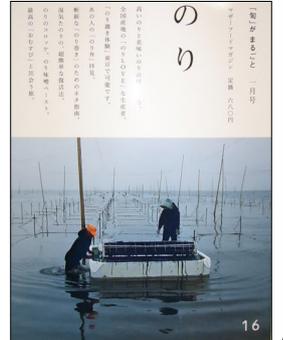
この雑誌は、その時々「旬」の食べものを掲載する雑誌ですが、今月号で「のり」の特集をしています。

その中で、体験学習「海苔つけ体験」が載っています。

催しの内容が順序よく綿密に取材され、臨場感が伝わってきます。

館のライブラリーにありますので、ぜひ、ご一読を!!

(宮川)



今月の一枚 ~PHOTO~

この写真は、雑誌『主婦の友』（昭和7年9月1日主婦の友社発行）付録の絵はがきです。

河岸に竹ヒビがうずたかく積みれ、係留されたベカブネの向こうに、ガスタンクが写っています。

大森町外れの風景として紹介され、海苔の名産地の風景が、京浜運河計画によって近く消滅してしまうのは惜しまれると書かれています。

一旦は、時局によって漁業権放棄が決定したのですが、資金不足によって計画は白紙。戦後、再び大森に海苔の風景が戻って来たのです。（まこ）



協力者会とサポートスタッフ ～館の活動を支える人々～

いつもイベントで海苔の指導をしてくださっているのは、地元の元海苔生産者の「協力者会」の方々です。材料調達や道具作りなど、準備段階でも年間を通してご協力をいただいています。

また、サポートスタッフ「はまどの会」の方々も、海苔のことを学び、それを活かしてイベントの補助をしてくださっています。

サポートスタッフのための学習会では、協力者がいつもと違った厳しさで、熱のこもった指導をしてくれました。ちょっとぶっきらぼうな海の男たちですが、“教えがいのあるヤツには熱意で答える”という愛情を感じます。

先日は、舟に乗って海苔網を見に行くチャンスがあり、思わぬ体験に皆の気分も盛り上がりました。

人と人が集うことで、可能性は広がって行きます。この楽しさが、更に多くの人に広がって行くことを願っています。（まこ）



＊ コラム

昔、このあたりで養殖されていた「アサクサノリ」の育ちやすい環境は、海水と淡水の混ざる汽水域で、遠浅の海であることです。

東京湾はいくつかの川が流入し、海苔の育ちやすい汽水域です。また、当時の大森の海は遠浅の海が広がり、干潟がたくさんあったようです。今は整備され、干潟の数も少なくなりましたが・・・

「大森の海岸から千葉がうっすらと見えただよ。」と元海苔生産者が語っていました。今の海とはまったく別の姿だった大森の海。その海を一度でいいから眺めてみたいものです。（りょう）

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」11号

平成21年12月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース新春号(12号)



新年のご挨拶

平塚 義正

新年明けましてお芽出とうございませす。
昨年はい皆様様の力強いご支援を頂き「海苔のふるさと館」の行事が、滞りなく運んで来られましてこと心より感謝申し上げます。

本年は寅歳の力強さを頂いて昨年より劣らず事業を勧めてまいりたいと存じます。昨年は海苔つけや箸編み体験、浜辺の生き物探検、紙のベカブネ作り、海苔の街を伝える講座と街歩き、海洋大学と提携等体験学習を基本に実施してきました。本年は参加者のご意見等を生かし幅を広げてゆきたいと思ひます。

閉館してから職員は来館者一人々に温かい挨拶をする様心掛けてまいりました。お陰で新春早々約五万人の来館者を迎えることとなり、本場大森海苔を築き上げた私達の祖先は、昆んでいてくれると思ひます。

今後共にご支援賜ります様お願いいたします。

(特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)



あけましておめでとうございます!!



昨年
10月ごろか
らふる
さとの浜辺に

ヒビを建て、海苔の生育観察をしています。12月に手入れ(初摘み取り)を行い、約260枚の乾し海苔を付けましたが、その後、なかなか上手くいかず…。やはり自然相手なので難しいです。今年もおいしい海苔がたくさん取れますように!!

(平山龍)



ふるさと館は“海苔”をテーマとした国内初の博物館として数多くの方々にお越しいただいております。国内のみならず、特にヨーロッパや北米・南米、アジアなどの諸外国からの来館者の方々も多数訪れております。

昨年はお陰様で来館者が14万人を超える偉業を成し遂げました。元海苔生産者の方々とは来館者の方々との掛け橋になれるよう昨年以上にがんばりたいと思います。

(高橋義人)



大森には、かつて海苔の季節労働者として地方から来た方々もいらっしゃいます。私も東北出身。このふるさと館も、地元の方々だけでなく、関心を持ってくださる多くの方々にとっての「ふるさと」になることを願っています。今年もよろしくお祈りします。(五十嵐麻子)



昨年は「読み聞かせ」を「はまどの会」の方たちに時にはボランティアの人たちに支えられて毎月行うことができました。大勢の親子さんに聞いて楽しんで、ふるさと館を好き



になっていただきました。ありがとうございます。今年もよろしくお願いいたします。(渡辺久江)



あけましておめでとうございます。今年、寅年!!ふるさと館もトラのごとく勇猛果敢に運営に取り組み、地域の皆様楽しんでいただけるようガンバリたいと思いますので、応援よろしく

お願いします。(宮川修)

ふるさと館に入ると、おじいちゃんと孫の会話が流れてきます。「寒くなると海苔がたくさん採れてお正月も休まなかったんだよ。」2階に展示してある「ぱっこ」って? 3階から浜を眺めたら外で元気に遊んで下さい。コマ、けん玉、羽子板もどうぞ。窓口から今年もよろしく。(信田幸子)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」12号

平成22年1月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 13号

「大森 海苔のふるさと館」設立の喜び

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

理事長 平林義正

■海苔場が消えた

丁場寄り合いから帰ってきた父親は、夕飯の折「あの子は偉いや、親孝行だ」と当時小学校六年生の私に、友達を何回も褒めるので「あれが、なんで偉いんだよ」とむきになって聞き返すと「あの子はな、学校上がらないで家の仕事をすると言いつ出したので、父さんがたいそうの喜びで、にこにこしていた」と言う。

このようにして、先祖代々、親から子へと受け継いできた海苔漁業の海に、東京オリンピックピクの高速度路を造るため、海苔場を都に提供せざるを得なくなつた。五年六か月、命を張って反対し続けてきた交渉は、埋め立て反対対策委員会と総代会の合同会議で都の提出した協定書を承諾することになり、昭和三十七年八月十一日の明け方午前四時に終止符を打った。埋め立て反対交渉に当たってきた一同の慟哭(どうこく)が、一瞬、

★海苔の仕事のひとつ

会場の熱気を静寂に変えた。八月の太陽がため息と共に昇つたのである。三百年來、親から伝えられた職業を手放す最後の光景だった。その直後に大森海苔

■海苔漁具が重文に

平成五年十一月、海苔漁具が重要文化財になるという報告会が、郷



ふるさとの浜辺公園のアサクサノリ 生育観察事業

漁業資料保存会が創設された。会長は朝学(大森の海苔漁業者の子どもたちは朝五時から二時間学校に通い、そのあと家業を手伝った)の校長横溝良三先生。そして、朝学担当の田口久雄先生とその教え子九名、白田由五郎先生を含む後援者五名など総勢十六名が集まった。三十七年暮れより三年がかりで田口先生の指導のもと、漁具や失われよとする海苔資料を収集した。九名の朝学経験者は、田口先生への恩返しのように熱心に働いた。

集めた資

材は、大森第一小学校へ、その後茨田直蔵氏の乾燥場へ移され、さらに区に交渉して入新井にある教育委員会地下室へと転々とした。そして、郷土博物館ができたのでそこに移された。しかし、我々の道具が何故山のほうへ持ってゆかれるのか、海苔漁業者の不満は濃く、区を恨んだのである。

一方、昭和四十年より本場大森海苔の歴史を残しておこうと、六名の編集委員が二年がかりで都政資料館に通い資料を集め、計八年がかりで八百頁にのぼる『大森漁業史』を完成させた。



★伝馬船で一休み 田口久雄氏撮影



入口で来館者をお迎えする海苔船

土博物館で開催された。高円宮ご夫妻ご臨席の許、西野区長はじめ関係者が集まった。西岡秀雄館長は「これから職員にピストルを持たせなければならぬ。八七九点の国宝をお預かりして一点でもなくなれば国宝でなくなる。外国では守るためにそうしている国が多い」と挨拶し、集めた私たちは喜びを禁じえなかったことが思い出される。十二月十三日官報に載せられ国指定重要民俗有形文化財に指定された。

■漁具が浜辺に帰る
平成十五年、お台場のガス会社

の跡に「ふるさと浜辺公園を造る会」が発足した。その一分科会が土木事務所を改造して海苔資料館を造る会として活動を始め、区長はじめ各方面に協力を要請し、先祖たちが使用した重要文化財を展示した「大森海苔のふるさと館」が平成二十年四月六日にオープンした。そして、一年後の二十一年六月十四日には早くも十万人の来館者を迎え、記念品贈呈を行った。

館に入ると、伝馬舟（てんません）を積んだ機械船があり、船上の祖父と孫のやりとりで海苔製造の過程をやさしく楽しく紹介している。一階に当時の海苔つけ場の再現・図書資料室・海苔つけ作業室、二階は重要文化財の海苔漁具各種が展示され、江戸時代から伝わった浅草海苔の作り方が、誰にでもわかり興味を誘う展示室になっている。



海苔簀編みのためのよし刈り作業

竹ひび・木ひびを建てる「ふり棒」のセットがあり、海中で高下駄をはいて竹ひびを建てるため穴をあける雰囲気味わえて訪れた人を喜ばせている。多くの人々に訪れてもらい、「NPO法人 海苔のふるさと会」会員をはじめ漁具を使った先祖たちの喜びは一方ならぬものがあると思う。ご先祖様への御恩報じができた、土地っ子の人たちは大変感謝している。その気持ちを持って葦（よし）刈、葦干し、簀（す）編み仕事、網編み、竹ひび建て、網張り、海苔採り、海苔つけ、海苔乾し、海苔へがしと、一連の仕事を若い人々に伝承すべく館で指導を続けている。

浅草海苔発祥の地の製造法を後世へ。かつての海苔漁家の四季の生活ににじみ出た大森漁民独特の人情味とふるさと意識を後世へ。興産の念の尊さ、親から受け継がれる生業の重要さ大切さを後世へ。海にまつわるすべての文化と科学を次の世代へ受け渡すべく努力している。

※この文章は、「我が街 かわら版号外」(朝日新聞サービスマンカー編集・発行 平成二十一年七月二十日)に掲載したものを、再掲載させていただきました。

★印の写真は、大田区立郷土博物館の所蔵写真をお借りし、掲載いたしました。



区内小学校向けの海苔つけの体験学習

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報
「大森 海苔のふるさと館ニュース」13号

平成22年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333 / FAX 03-5471-0347